

患者が変われば 医療が変わる 医療が変われば 地域が変わる



島根益田がんケアサロン 代表
C・T・V創生研究所 所長 納賀 良一

1937年5月、石川県金沢市生まれ。同志社大学文学部卒。特殊精密機器メーカーの㈱フジキン総務部部長兼改革推進室リーダーを経て、1994年3月、1ターンで益田市移住。益田ドライビングスクール合宿型システム作りを依頼される(ガイアの夜明けで放映)。その後、C・T・V創生研究所設立。地域で観光、定住、教育、医療など街おこしを実施。2005年12月、全国初のがんサロン開設。

第27回 入院から学ぶこと その②

入院してから11日目のこと。急いでトイレに駆け込みベッドに戻った時だった。急に気分が悪くなり、吐き気がした。看

血糖値下がっても高血糖状態

シュリンも24時間持続型から48時間持続型に変更した。血糖値コントロール管理で、翌日の朝は血糖値が120まで下がった。良かったと思った時だった。身体が血糖値コントロールに付いていない。神経障害の合併症の症状は多岐にわたる。身体は高血糖状態にあるはずが、血糖値データは120。身体はまだ高血糖状態なのにデータの変化に身体が対応できていないのだ。

さらに追い打ちがかかった。糖尿は糖尿病内科、心筋梗塞は循環器科、両方の科で治療が続いている。糖尿病内科では一日1000ミリ内の水分制限。ところがその後、循環器の医師から脱水状況を呈しているとの知らせを受けた。一方では「水分をとるな」、その一方では「脱水状況」。

科が違えば見えてくるものも違う。その調整をいかに行うか。連係プレーの大切さを覗き見た。さらに不可解なことが起こった。

この病院では、今年の3月から入院患者に対して、歯科診療を追加している。これは有難いこととして受け止め、受診した。歯や口腔内の清掃が中心で10分程度で終わりで安心していった。

その後、4月分の請求書がベットサイドにおいてあり、会計に行った時だ。医療費には支払いの限度額がある。別途追加請求されるものは室料、食事代、病衣などだ。今回は医科の請求に、歯科の請求がプラスになっている。この事実を患者はほとんど知らないのではなか。なぜ別途なのか、会計に行き詰って聞いてみた。「請求先が違うから別途請求している」とのことだ。そんなことは患者に関わりのないこと。この事実をがんサロンで患者仲間にも知らせたい。